

## 5年「金沢市中央卸売市場活性化プロジェクト」

田中 朋子

### (1) 1学期の取組

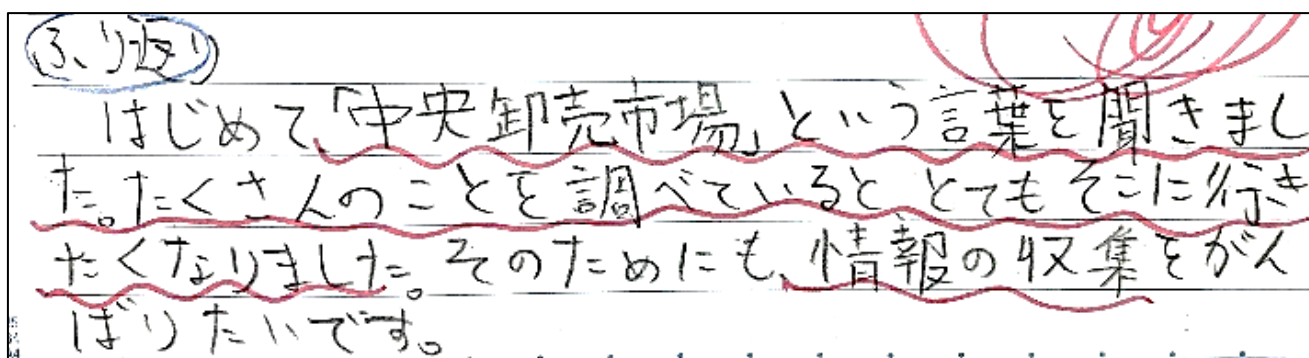
今年度の5年生における総合的な学習の時間は、金沢市中央卸売市場を題材として進めていく。金沢市中央卸売市場は、魚や野菜などの生鮮食品が全国から集められる場所であり、私たちの毎日の食生活に必要な不可欠な存在である。しかし、このような金沢市中央卸売市場という場所があることを知っている子どもは少ないであろう。知っていたとしても、市場の中ではどのようなことが行われているのかについては、容易に想像することができないのではないかとと思われる。今まで知らなかった場所と出会うことは子どもの興味や疑問へとつながり、知りたい、考えたいという思いをもつことで9つの資質能力のうちの心「好奇心→挑戦心→向上心」が育成されるのではないかと考えた。また、その3つの心を土台として、市場について情報の収集を行ったり、収集した情報を整理・分析したり、まとめたことを人に伝えたりすることなどを通して、9つの資質能力のすべてが育成できると考えた。

はじめに、中央卸売市場という存在に出合わせるために、自分の家庭の食卓に並ぶ魚料理に目を向けることにした。普段食べている魚料理に使われる魚は、どのようにして食卓まで届いているかを予想させる活動からスタートした。友達の前予想を共感的に聞いたり、疑問をもって聞いたりできるようにするために、ワールドカフェを取り入れ、予想の交流を行った(資料1)。予想を確かめるために、インターネットで調べてみると、「食卓に並ぶ魚は、金沢市中央卸売市場を通過している」ということを発見することができた。



資料1 予想の交流

これが市場との出会いとなった。子どもは、自分の食卓とつながっている場所があることを初めて知り、どんなところなのか調べていきたいという気持ちをもつことができた。資料2のA児のふりかえりからも、もっと知りたい、実際に行ってみみたいなどの思いをもち、次の情報の収集への意欲を高めていることが分かる。これらのことから、題材との出会いが子どもの「好奇心」をもたせることができたと考える。



資料2 A児のふりかえり

1学期の学習課題は「金沢市中央卸売市場はどんなところなのか」とし、次は情報の収集を行っていくことにした。上述したA児のように、見学に行って情報を得たいと考える子どももいたが、知りたい情報を選びすぐってから見学に行くために情報の収集を段階的に行うことにした。まずは、インターネッ

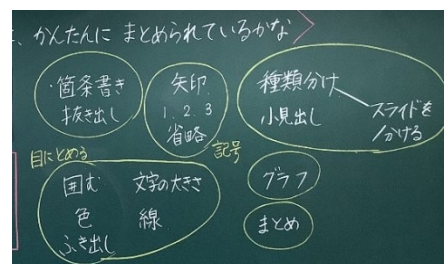
トを使って市場について情報の収集を行った。しかし、インターネットから収集できる情報は限られており、難しい表現も多く、自分が知りたい市場の情報を収集することは難しかった。そこで、市場の方からお借りしたDVDを視聴することにした。DVDは子ども向けで分かりやすい内容であり、インターネットに比べると知りたい情報を得ることができた。しかし、DVDの情報もインターネットと同じで一方通行であるため、自分たちが見たいこと、聞きたいことがすべて叶うわけではない。子どもは、「実際に自分たちの目や耳で確かめたい」「分からないことは直接聞いてみたい」という気持ちを強くもった。市場の方にお手紙を書いて、見学をお願いしたいという声が挙がった。みんなの思いをまとめて代表が書いた手紙によって、市場への見学が実現した。見学では、市場について自分なりの疑問について実際に見たり聞いたりして確かめることができた。すぐに見学に行くのではなく、インターネット→DVD→見学というように課題解決に向けての方法を段階的に提示したことで、課題をより明確に見つけることができた。この手立てをうつつことで、9つの資質能力の一つである「課題を発見する力」の育成につながったと考える。

見学を終えた子どもは、見学で見つけたことを周りの人に伝えて市場のことをもっと多くの人に知ってもらいたいという思いをもった。そこで、誰に向けて伝えるのか（相手意識）何をどのように伝えるのか（伝え方）を共通理解し、情報の整理・分析を行っていくことにした。1学期は、自分たちの最も身近である保護者に一人一人がプレゼンをして伝えることに決まった。1学期のゴールの姿「金沢市中央卸売市場がどんなところなのかをまとめて、保護者にプレゼンで説明する」を全員で確認し、小グループでプレゼンのテーマを絞っていくことにした。資料3のように、見学で収集した多くの情報を学習支援アプリの付箋で出し合い、保護者にどんなことを伝えたらよいかについて多様な方法で整理・分析を行っていった。どのグループも「保護者に伝える」という相手意識を大切にして、情報を整理・分析し、より伝えたいテーマを絞ることができた。



資料3 学習支援アプリでの整理分析の様子

保護者に伝えたいテーマが決まると、次はどのように伝えるかについて話し合いを行った。今回は、プレゼンで「かんたん」に伝えるということに決まった。「かんたん」とは、「分かりやすく」「短く」ということであると子どもと定義付け、共有した。そして、その視点でさらに情報の整理・分析を行っていくことで、「伝える力」を育てたいと考えた。分析を行う場面では、教師の原稿を「かんたん」の視点でスライドにする方法を全員で考える活動を取り入れた。その活動を通して、「箇条書きにする」「記号を使う」「スライドを分ける」「強調する」などの方法を子どもは見付けた（資料4）。このポイントをもとに自分たちのスラ



資料4 「かんたん」のポイント

イドを友達同士で見合い、アドバイスをし合った。その後の自分たちのスライドを見直す場面では、資料5のグループAでは、文章を箇条書きにし、強調したいことを囲んで追加している。また、資料6のグループBでは、同じく文章を箇条書きにし、大事なところをアンダーラインで強調している。「かんたん」のポイントやほかのグループからのアドバイスに基づいて、自分たちのスライドを見直し、よりよいものに改善することができたことが分かる。しかし、その一方で、あまり改善できなかったグループもあった。資料7のグループCは、「かんたん」のポイントをまとめた授業の前と後でスライド内容が全く変わっていなかった。グループCの子どもは、授業でポイントを学ぶ前から、「>」や「→」といった記号を用いたり、色を変えたり線を引いたりとすでにポイントを取り入れてスライドを作成することができていた。このグループは、すでに「かんたん」する方法が分かっており、よりよくする必要感を感じなかった子どももいたと考えられた。これらのことから、「かんたん」という伝える視点を明確にし、原稿をスライドに直す活動を取り入れたことは、端的に分かりやすく伝える力の育成につながったと考える。一方で、自分たちのスライドを見直す必要がなかった子どももいた。スライド作成に入る前にこの活動を取り入れていれば、必要感をもってそれぞれのスライドに取り入れていくことができたのではないかと考えられた。また、スライドが完成してから見直すのならば、もっと子どもに見直したいと思わせるような手だてが必要であるということも分かった。どのタイミングでどのような手だてをうつつと、より子どもの資質能力の育成につながるのかを見極めていく必要があると感じた。

授業前	→	授業後
<p><b>セリについての豆知識!</b> セリが行われる時間は大体1~2時間です。そしてセリの1日の金額は約2300万円で、一年間のセリの金額は一兆円にまで行きます。</p>		<p><b>セリについての豆知識!</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>セリが行われる時間は大体1~2時間</li> <li>セリの1日の金額は約2300万円</li> <li>一年間のセリの金額は一億円</li> </ul> </p>

資料5 グループAのスライド

授業前	→	授業後
<p><b>仲卸売人とは</b> 仲卸売人とはとは、市場内に市場を持ち、卸売業者からセリ売等で買い受けた生鮮食料品等を分荷して、買い出し人などにはんばお出来る人のこと</p>		<p><b>仲卸売人とは</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>仲卸売人とは、卸売業者からセリ売等で買い受けた生鮮食料品等を分荷して、買い出し人などに販売出来る人のこと</li> </ul> </p> <p style="color: red; border: 2px solid red; padding: 5px; display: inline-block;">セリをするときに大事な人たち!</p>

資料6 グループBのスライド

**輸入の量 < くだもの > 野菜**

↓

**輸入は大変か?**  
→ 専門の会社がやってくれるから **大変ではない**

野菜の輸入が少ない理由

**新鮮さが第一だから 野菜は日本ものが多い**

資料7 グループCのスライド



## (2) 2学期の取組

子どもは、1学期の探究活動を終えて、金沢市中央卸売市場は新鮮な鮮魚や青果が取引されている安心・安全な場所であり、そこで働く人は朝早くから支え合って仕事をしている魅力的な場所であると感じていた。そんな子どもに新たな課題をもたせるために、中央卸売市場における実物の廃棄野菜を提示することにした(資料8)。中央卸売市場にも、廃棄される野菜があるという事実を知り、子どもは大変驚いた(資料9※1)。市場の廃棄について考えることを通して、自分たちの身のまわりでもまだ食べられる食品を捨てているということや食品ロス問題は自分たちの身近にある見逃すことができない問題であるということに気付くことができた。そして、「食品ロスを改善するために、自分たちにできることを考え、広めよう」という課題を設定することができた。資料9の※2資料10の※3のように、子どものふりかえりからも、自分たちにできることはないかを進んで考え、自分もった課題や疑問について調べていきたいという思いをもつことができています。このことから、廃棄野菜の提示が子どもの「挑戦心」を育むことにつながったと考える。



資料8 廃棄野菜との出会い

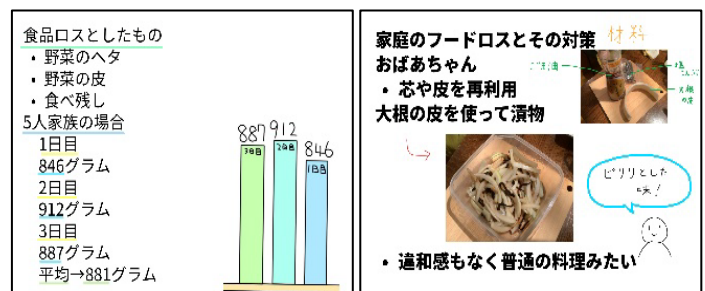
市場から朝いただいた野菜を見て、傷んでいる、色が変わっているなどの驚きがたくさんありました。※1廃棄野菜についての課題や疑問を見付けることができました。その課題を少しでも解決できるように自分たちにできることはしていきたいと思いました。※2

資料9 B児のふりかえり

自分たちの家庭で使わないものや捨ててしまうものを探してみると、意外と食品ロスがあるんだということが分かりました。食品ロスは地球温暖化人口増加に伴う食糧不足にもつながるので、日常でも心がけていきたいと思いました。次は、どうやったら食品ロスが減らせるのかについて調べたいです。※3

資料10 C児のふりかえり

食品ロスについて情報の収集を行うと、日本全体では1年間に612万トン(東京ドーム5杯分)が廃棄されており、一日につき一人あたりでお茶碗一杯分の食品が捨てられていることが分かった。そこで、各家庭でどんなものをどれくらい捨てているのか調査を行うことにした。自分たちの家庭では、食べ残しだけでなく、野菜の皮や芯を捨ててしまっているという現状や、その対策として野菜の皮や芯を別の料理にして食べているなどの工夫を知ることができた(資料11)。また、調査したことを友達同士で伝え合うことを通して、自分たちの身のまわりで起こっている食品ロスの現状や課題についてより深く知ることができた。次の活動につなげるために、食品ロス問題の解決に向けて活動しているわこころさんをゲストティーチャーとして招き、話を聞くという手立てをとった(資料12)。わこころさんは、規格外野菜で作ったスープを大学の食堂で販売をしている方で、まさに、身近なフードロスの改善をめざして実践している先駆者である。わこころさんに、規格外野



資料11 家庭での調査結果



資料12 わこころさんとの出会い

菜も、工夫して調理をすればおいしく食べられることを教えていただき、子どもは自分たちもわこころさんのように自分たちで調理をして食品ロスをなくしていきたいという思いをもった（資料13※4）。わこころさんとの出会いをきっかけとして、自分たちの身のまわりの食品ロスを改善するためのレシピを考えていく活動につなげることができた。

私は廃棄野菜（規格外野菜）をどうしたら調理できるんだろうと不思議に思っていました。それを実現しているお店があるなんてとてもびっくりしました。これからは、規格外野菜を使ったおいしいレシピを見つけたいです。※4

### 資料13 D児のふりかえり

一人一人がそれぞれ自分の家庭の食品ロスを見直し、それを改善するためのレシピを考え出すことができた。このとき、レシピを考える視点として、「①食品ロスの改善になるもの、②自分で作れるもの、③オリジナルであるもの」の3つを子どもと考え、共通理解した。3つの視点を取り入れたレシピが完成し、実際に家庭で調理もでき、子どもは大きな満足感を得ることができた。そのような子どもに自分たちのレシピを見直しさらによりよい物にしてほしいと考え、再度わこころさんに教室に来ていただきアドバイスをいただくという手立てをとった。そうすることで、子どもは新しい視点で自分のレシピを見直すことができ、情報の整理・分析の力を高めることができると考えた。わこころさんには、食材を変えたり、味付けを変えたりして「続けて作ることができる」レシピになっているかという新しい視点を話していただいた。資料14のE児のレシピには、わこころさんの話を受けて、ブロッコリーの芯やにんじんの皮など、食材を状況に応じてアレンジできるレシピに見直すことができている。また、味付けも白だしだけでなくコンソメも使えることについても付け足されている。これらのことから、わこころさんから新しい視点を与えていただいたことで、自分のレシピをよりフードロス問題を解決する「続けて作ることができる」レシピに見直すことができたと考える。

料理名: 余った具材で簡単パスタ

材料 (分量)一人分  
 水1リットルぐらい、オリーブオイル適量、パスタ100g、**コンソメ** (白だし大さじ2)、**チューブにんにく適量**  
 (※は期限などが近い好みの具材) **ブロッコリーの芯、にんじんの皮** (大きさは、15)

作り方  
 ①1リットルの水にオリーブオイル大さじ1を加えてまぜ鍋で沸騰させる  
 ②沸騰したらパスタを入れ中火で一分間ぐらい茹でる  
 ③パスタを茹でる間に具材を用意しフライパンに油を引いて火を通す  
 ④炒めた野菜の入ったフライパンにパスタを加え茹で汁、白だし、にんにくチューブで味付けをする  
 ⑤盛りつけて完成 (パセリをつけるともっと見た目が華やかになりました) **具材が残ったらスープに**

食品ロス対策  
 具材に芽が出たジャガイモを使ったり、賞味期限が近いものを使ったこと

資料14 E児の見直したレシピ  
(赤字は直したところ)

2学期のまとめとして、2学期の成果を誰にどのような形で伝えるのかという話し合いを行った。話し合いでは、保護者にプレゼンをして伝えようということに決まった。授業参観でプレゼンを行い、フードロスのこと、各家庭での現状と対策、レシピの考案について全員が話すことができた。保護者に向けてしっかりと発表することができたが、子どもはどこか満足できていない様子であった。その後の話し合いで、自分たちは、結局自分たちの家庭にしか広められていないという現実に気付き、もう少し、広める範囲を拡張したいという思いをもった。そこで、パンフレットを作って全校に配布することに決まった。各学年の目線に合わせたパンフレットを作りたいという思いをもち、学年ごとの小グループを作ってパンフレットを作成した。このころになると、教師の手立てはあまり必要なく、子どもだけで自走ができるようになってきた。完成が近づくころには、お互いにパンフレットを見合い、見直しをかけることも子どもの提案によって進んだ。そして、学年ごとに工夫を凝らしたパンフレットを完成させることができた（資料

15、16)。さらに、パンフレットの配布場面で、「パンフレットの効果を検証するために、アンケートを実施してはどうか」という声の一部の子どもからあがった。「Q1. 食品ロスという言葉を知っているか」「Q2. まだ食べられるものを捨てたことがあるか」という質問を各クラスで実施し、配布前後の全校児童の意識の変化を検証することにした。この活動は、3学期へとつなげていく予定である。



資料 15 完成したパンフレット（1年生配布）

資料 16 完成したパンフレット（6年生配布）

### (3) 今後の展望

3学期は、まず2学期末のアンケート配布の際に実施したアンケート調査について、整理・分析していく。アンケート配布前後の全校子どもの食品ロスに対する意識の変化から、次にどんな活動をしていけば、自分たちのめざす課題である「食品ロスを改善するために、自分たちにできることを考え、広めよう」により近づくことができるのかを探っていきたい。

また、廃棄野菜を提供してくださった金沢市中央卸売市場の方々やレシピを作るにあたりたくさんアドバイスをいただいたわこころさんに、感謝の気持ちをこめて、自分たちの行ってきた活動について発信していく機会を設けたいと考えている。